

第3回学校運営協議会 議事録

書記 土谷 優子

1 日時 令和5年3月10日（金） 14時00分～14時40分 キャリア部会
15時00分～16時00分 学校運営協議会（全体会）

2 場所 本校A棟3階 大会議室

3 出席者

<キャリア部会>

鎌倉高等学校 学校運営協議会委員（敬称略）

永野 征男 日本大学名誉教授、鎌倉市まちづくり審議会委員

大村 智香子 本校PTA会長

田邊 克彦 元昭和音楽大学教授、元県立総合教育センター所長

鎌倉高等学校職員

築瀬 公成 副校長

石川 比呂子 総括教諭 キャリア支援グループリーダー

佐藤 靖彦 総括教諭 学習企画グループリーダー

土谷 優子 教諭 学習企画グループ

<学校運営協議会（全体会）> ※キャリア部会出席者は引き続き出席

鎌倉高等学校 学校運営協議会委員（敬称略）

板倉 浩子 本校元PTA会長

田中 顯治 鎌倉高等学校長

鎌倉高等学校職員

佐藤 竜太 教頭

椿 みどり 事務長

福井 利廣 総括教諭 教務グループリーダー

鈴木 康晴 総括教諭 管理グループリーダー

永山 悦子 総括教諭 生活指導グループリーダー

千葉 大介 総括教諭 生徒会グループリーダー

欠席者

鈴木 徹 鎌倉市立腰越中学校長

齋藤 貴 神奈川工科大学副学長

白井 誠一 七里ガ浜二丁目自治会長

渡邊 晃 本校同窓会長

中林 奈美子 本校元PTA会長

4 協議内容

<キャリア部会>

築瀬副校長

・今回初めてキャリア部会の開催となった。今後の鎌倉高校について、形式ばらずに自由活発に、忌憚のない意見をお願いしたい。まずキャリア支援グループリーダー石川より、現況をお話する。

キャリア支援グループ 石川総括教諭

・キャリア支援グループは、学年に2名ずつを基本に、現在教員10名で構成。新採用や再任用等、任期が限られた教員が多く、教員の入れ替わりが激しい。そのため、教員向けの研修資料を配付し、周知を図った。

・今年度74期生の進路実績の仮集計資料をご覧いただくと、コロナ禍の入学であった74期だが、例年と比べて大きな違いがあるとは感じていない。コロナ禍でありながら、努力した学年である。本日東京大学の合格発表で、その後早慶の追加合格があり、確定していく。入学定員のしくみが変わったため、それほど追加合格は出ない見込み。

築瀬副校長

・大学入学共通テストの74期生結果を見ると、「倫理、政治・経済」以外は全国集計の平均点を上回っている。

石川

・グローバルから理数へ、県からの教育推進の指定が変わったが、昨年度73期生と比較して、「英語（リーディング）」の校内平均点も下がったというほどではない。誤差の範囲。

・予備校の分析では、コロナの休校期間中にZoomでの授業配信等を多く行った学校（私立中心）は結果が出ている傾向。県立高校は、授業の配信については、顔や声といった個人情報にも配慮せねばならないこともあり、あまりできなかった。

田邊委員

・理数教育推進校に指定されたのはいつか？

築瀬副校長（回答）

・平成31（2019）年度より指定を受けており、今年度で4年目。

田邊委員

・理数教育推進校に指定されてから、何か変化はあるか？

学習企画グループ 佐藤総括教諭（回答）

・73期生は、入学した後にグローバルから理数へと指定が変わったが、74期生は入学前から理数教育推進校だとわかっていた。そのため理数が得意だという自覚のある生徒が入学してきたと思われる。2年生では半分以上が理系。3年生に至るまでに理系から文系に変わる生徒が出て半々になった。男子も多かった。

・K-ARPはコロナのせいでつまずいた。理数教育の柱である探究活動が満足にできなかった。3年生の前期でポスターセッションを行い区切りは付いたが、理数の思考力育成としては不十分だったというのが実感。

築瀬副校長

・大村様、親の立場としてはどうか？

大村委員

・理数教育推進校とわかって入学した。兄が鎌倉高校で、当時グローバル教育推進校の活動をしていて、それを見ていた妹は「鎌倉高校いいな」と思っていた。実際のところ、理数教育推進校となった鎌倉高校でも、途中で理系から文系に変わる友人も多かった。積極的に学校という場を利用して勉強していた。

永野委員

・生徒は、理数系が重視されているという大学の情報をいつどこから得られるのか？

石川（回答）

・分野別説明会や大学別説明会といった1・2年生での説明会で、その機会が与えられている。

永野委員

・広報担当ではなく、幅広い理系の知識を必要とすることを伝えられる講師に来てもらうべき。

石川（回答）

・希望する講師をお願いしても来てもらえないこともある。

永野委員

・73期生と74期生を比較して、受験科目の選択の大きな変化はあったのか？

石川（回答）

・大きな変化はないが、理系が多い。

佐藤（回答）

・昨年9月の理数教育講演会では、「はやぶさ2」に携わった海洋研究開発機構（JAMSTEC）の高野さんにオンラインでお話いただいた。その時の生徒の質問やアンケートの答え方から見ても、理数の考え方を活用していく重要性を理解している。興味関心は高く、問い掛けに対して自ら考えようとする意欲もある。

永野委員

・そのような講演会や説明会は、どのように依頼するのか？

佐藤（回答）

・理数教育講演会は個別に依頼している。昨年はJAMSTECについてのある教員がいた。昨年12月のサイエンスカフェ（カフェのような雰囲気の中で科学を語り合う場をイメージした小規模な講演会）は、教員の大学のつてやJAMSTECからの紹介で講師を集めた。県教育委員会が設置した県立高校生学習活動コンソーシアムからお願いすることもある。

石川（回答）

・進路の説明会は業者にもお願いするが、大学によっては業者をはさむと断られる場合もあり、個別に依頼している。北海道大学、東京工業大学、神奈川県立保健福祉大学には個別に依頼した。教員が依頼文の準備に追われて授業の準備がおろそかになるという状況にならないよう配慮している。

永野委員

・大学の入学志望のきっかけとして、教授の講演会を聴いたからという例もある。

石川（回答）

・教授ごとに合う日程が限られているのが悩ましい。生徒は部活もあり、放課後に様々な日程で個別の講演会を組むことができない。

永野委員

・東京都において校内予備校という取組みがなされたが、神奈川県や鎌倉高校としては何か取組みがあるか？

築瀬副校長（回答）

・生徒が校内で自習できる環境を整備したり、講習を充実させている。

石川（回答）

・例えば横浜市は公費で英検を受けさせる取組みがあるが、それができるのは財政が強いところ。神奈川県としては調整中。

築瀬副校長

・大学との連携について、書記の土谷から報告する。

学習企画グループ 土谷教諭（回答）

・総合的な探究の時間（K-ARP）において、日本大学生物資源科学部の大学院生（Student Service）に、班の研究活動にオンラインでアドバイスをもらった。研究テーマごとの班分けをする前の個人テーマ設定の段階では、児童虐待についての研究を希望している生徒に、神奈川県立保健福祉大学の新保幸男教授からオンラインでお話をいただいた。

築瀬副校長

・大学教授や大学院生と関わる中で、生徒は刺激を受けている。どう自身のキャリアに結び付けていくか問われている。

田邊委員

・OBの中には大学で教鞭をとっている人もいる。そういったOBをリスト化はしたことあるのか？

佐藤（回答）

・サイエンスカフェではOBに依頼をした。潜在的な人材はある。同窓会を通じて、今後お願いできたらよい。

田邊委員

・同窓会にお願いすれば、かなり手を挙げてくれる。人材活用の組織化ができ、これまで埋もれていた人材が学校の役に立つようになるはず。

永野委員

・希望ヶ丘高校では、同窓会が財団法人化しており、学校と連携して人材バンクを形成した。講演料は無料、最高年齢は60歳とし、学校が必要な時にその人材バンクから選んで依頼する形式である。

石川（回答）

・“60歳上限”という明確な基準が大切だと思う。勉強になった。学校側がお願いしたい方は現役で多忙、お話されたい方は現役を退かれた方。学校が求める人材とOBで話したい人をマッチさせるのが難しい。60歳上限の人材バンクならそれが叶う。

<学校運営協議会（全体会）>

築瀬副校長

・キャリア部会に引き続き全体会を開催するにあたって、準備の関係で資料が当日配付となってしまったことについて謝罪させていただきたい。

（1）校長挨拶

田中校長

・当日の欠席連絡もあり、欠席の委員が多くなってしまったが、別日の設定は難しいため、欠席された委員には本日の内容を議事録の形で示して別途ご意見をいただく。

・2年の任期の中で多くのご意見をいただいた。感謝したい。学校運営協議会という形になり、学校の授業改善や運営について様々なご意見をいただき、協議していく場となった。授業や学校行事も是非見ていただきたい。

（2）グループ報告

教務グループ 福井総括教諭

・資料の通り。とくに補足なし。

キャリア支援グループ 石川総括教諭

- ・実力テストを選定し直し、定点データで経年変化を見ることができるようにした。
- ・生徒に対しては、合格者講話や進路集会を実施し、キャリアワークブックを活用した。
- ・キャリア部会報告（詳細は既述の通り）で、貴重なご意見をいただいた。

管理グループ 鈴木総括教諭

- ・昨日の卒業式は、保護者2名参加の形で実施できた。様々な業務がコロナ禍以前の形に戻りつつある。
- ・来年度はコロナ禍前のように、藤沢養護学校分教室とも交流機会を設けた形での合唱コンクールを実施できると良い。
- ・防災訓練では、グラウンドへの生徒一斉避難ができた。来年度は避難のバリエーションを増やし、より実際の訓練を行いたい。

生活指導グループ 永山総括教諭

- ・生徒の簡易版情報共有シートを作成し一定期間職員室に掲示したことで、講師も生徒情報を確認できるようになった。ケース会議も複数回開催し、学校全体で支援情報を共有できた。
- ・一人一台端末の時代ということもあり、生徒はスマホで何でも動画や写真に収め、SNS 関係のトラブルが頻発している。法やルールに反するものという意識が欠けている。加害者側の意識改革も、加害者・被害者の双方の心のケアも必要。生徒の権利を守っていく。

生徒会グループ 千葉総括教諭

- ・前回の学校運営協議会にて、すべての行事が無事終わったことを報告した。今年度はコロナ禍において可能な範囲で様々な行事を実施してきた。来年度は鎌高祭の一般公開や合唱コンクールの保護者観覧可を検討している。

学習企画グループ 佐藤総括教諭

- ・公開研究授業を実施したり、他校の公開研究授業を見学したりする中で、他校の教員との情報共有ができた。
- ・今年度から導入された一人一台端末については、夏頃からスプレッドシートやジャムボードを使用する授業が増え始め、後期は一人一台端末を活用した授業が増えた。
- ・外部有識者による課題研究に関する研修会を実施することはできなかった。
- ・来年度、理数教育推進をテーマとした海外研修旅行の再開を模索している。
- ・学力向上進学重点校エントリー校実施報告書について、指標1及び2の項目“組織的な授業改善の取組の充実”において、生徒による授業評価項目3「単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」の問いに対して回答4「かなり当てはまる」の割合50%以上という目標を今年も達成できた。アクティブ・ラーニングの活動が行われてきている成果と考える。
- ・学校運営協議会を3回行うことができた。今年度はキャリア部会も開催でき、貴重なご意見をいただけた。

(3) 意見聴取

永野委員

- ・進路指導支援について、新学習指導要領における新しい共通テストに対応しての学校内での議論や取組みは何かあるか？

公共担当 千葉（回答）

- ・新学習指導要領の「公共」という科目においては、令和7年度大学入学共通テストの試作問題を読んだ上で、授業に活動を取り入れた。

英語担当 永山（回答）

- ・英語でも試作問題の内容から、速読に対応できるような授業構成にしている。

歴史総合担当 佐藤（回答）

- ・公開研究授業は、新学習指導要領に対応した内容であった。本校の生徒に足りない部分である“答えを疑うこと”をしている。「歴史総合」でも授業や定期試験に反映。各教科で対策を取り入れている。

永野委員

- ・実態があるのであれば、学校評価報告書の文言の中に入れる必要があるのではないか。

永野委員

- ・インターンシップについてはどうか？ 学力向上進学重点校エントリー校実施報告書では指標4にて“看護・製薬会社へのインターンシップへ参加した生徒が増加した”とあるが、学校評価報告書には出てこない。

石川（回答）

- ・インターンシップは連綿とつながってきている取組み。新たな学校の目標というわけではないため、学校評価報告書には記載がない。コロナ禍で実施ゼロだった頃と比較すると、参加者は増えている。

大村委員

- ・今年度もPTAの様々な意見を汲んでいただいた。PTAもコロナ禍以前のことを知らないメンバーとなっている。コロナ禍以前の本来の形がわからない…とならないように活動していきたい。
- ・時代の流れで致し方ない案件もあるが、一人一台端末をどうやって上手に活用していくか、保護者サイドでも話題となっている。

田邊委員

- ・資料は事前にいただきたい。
- ・第三者評価で指摘されたものが、学校評価報告書の記述から見えてこない。教科会の在り方や若手とベテランの解離性の問題点を指摘されていた。どう解消しようとしているのか？ 第三者評価に対する結果と今後の取組みについて、校内評価を修正して記載すべき。
- ・第三者評価では進路指導の指摘もあった。PDCAサイクルを明確にした内容を書くべき。取り組んでいるのに出てきていないこともある。スタディマラソンの具体化に向けた取組みは？ ロードマップは着手したのか？

石川（回答）

- ・スタディマラソンについては学年会でも共有し、今年度定期試験前で実施しなかったことはない。

1 学年リーダー 永山（回答）

- ・土日の取組みということもあり出勤できない教員もいるが、学年としてやっていないことはない。

2 学年リーダー 千葉（回答）

- ・2年生は、学年末試験前のスタディマラソンでは、土曜60名、日曜40名が参加。生徒はありがたがっている。
- ・教員の多忙化の中、部活動で普段土日に休めない教員にとって、部活動がオフとなる定期試験前は貴重な休める日でもある。そのため各教科の教員を揃えるのは難しく、服務についても課題はある。

石川（回答）

- ・スタディマラソンは土曜講習等とは別の形。学校という場所を提供して、活用させたいというのがスタート。したがって各教科の教員が揃っている必要はない。
- ・昨年度、75期（現2年生）において学年単位でスタートしたが、単年度で終わらせることなく、76期にも引き継がれている。学年の先生方の協力を仰いで実施している。

田中校長（回答）

- ・スタディマラソンのスタートがこのような経緯のため、“ロードマップ”の作成には至っていない。

田邊委員

- ・第三者評価の評価委員への伝わり方が異なっていた可能性がある。ロードマップ云々の問題ではない。スタディマラソンの趣旨をもう一度評価委員にきちんと伝えるべき。

板倉委員

- ・下の息子は私学の高校3年で、公立高校に比べ勉強量が非常に多い。だが、公立高校の方が先生たちの気持ちは伝わってくる。“答えがまだない課題を探す”ことについて、生徒への声掛けが大切。
- ・一人一台端末の案件については当事者となった生徒への心のケアが必要。
- ・鎌倉高校OBとしても、進路実績を単年度ではなく経年変化で見えていくのは面白い。
- ・卒業式に保護者2名が出席できてよかった。
- ・来年度は是非地震と津波の避難訓練も行ってほしい。実際にそのような事態となった際は、高校生が地域の人や観光客を助けることになる。そういうことができる鎌高生になってほしい。

田邊委員

- ・学校評価報告書の課題・改善方策等の箇所は、「したい」ではなく「する」という文末で書くべき。書き方を訂正してほしい。教員はこういう書き方をしてしまいがちだが、報告書なので明確に書く。
- ・スクールカウンセラーの活用が進んでいるとのこと。カウンセリングの状況についての話を聞きたい。

永山（回答）

- ・授業の日程は様々だが、カウンセリングは1コマ50分、予約制としている。予約方法を先着順から、申込締日を設けて申込者の中から必要度が高い順にカウンセリングへ入れていく形へ変更した。
- ・カウンセリング希望者も多いが、放課後には教員へのフィードバックの時間を確保するようにしている。

築瀬副校長（回答）

- ・カウンセラーは現在の月2回来校から増えると聞いているが、具体的な話はまだ来ていない。拡大方向になることは確か。

板倉委員

- ・保健室登校はあるのか？

永山（回答）

- ・高校は中学とは異なり、保健室に登校するとなると学校は出席扱いとなるが、授業は欠課となる。教室に行けない生徒に、まず保健室になら行けそうかというところから慣らしていくことはある。
- ・保護者の心のケアも、コロナ禍で必要となってきた。

佐藤

- ・配付資料の説明を追加する。来週2年生の総合的な探究の時間（K-ARP）の課題研究の発表を行う。答えのない、答えの見つからない課題に挑戦した。委員の皆様にも是非お越しいただきたい。

（4）その他

築瀬副校長（回答）

- ・来年度の入学式からは、学校運営協議会委員に案内を送付する。

以上